



高校生が体験を通じて訴えた

児童養護施設の生徒が子供貧困で提言

（一財）教育支援グローバル基金は、児童養護施設で暮らしている高校生たちによる「子供の貧困」解決に向けた提言発表会を、7月28日、内閣府で開いた。生徒は、現状の施設生活では得にくい進学や多様な職業選択への夢を描けるように、「つながりコミュニティProject」の実現と協力を訴えた。

夢を描けるつながり願う 進学や多様な職業選択で

会見では、同基金の支援事業「ビヨンドトモロー」に携わる生徒8人が、児童養護施設での生活や進学に向けた課題、

将来の目標や願いなどを真摯に語った。飯田芽生愛さんは、孤独感を抱える中で、高校の教員が丁寧に寄り添い、話を聞いてくれたのに、大きな感謝の念を抱いていると話した。日本の子供の貧困の広がりに関心を抱き、将来は、養護施

設の子供たちを受け止められる居場所づくりに携わりたいと夢を語った。

荒川未菜子さんは、施設に対して世間で多く持たれているネガティブなイメージを指摘。それだけではないと強調した。

課題では、高卒後の進学の困難さの背景について、▽経済的理由▽進学への目的を持ちにくい▽ロールモデルがいらない――を挙げた。

その後は、8人全員で、課題解決への提言を示した。

特に、将来の方向性や夢を描くための「ロールモデルを得にくい」一点に着目。その上で、施設間の多様な交流や、企業、大学、職業人などとの連携体制の構築の実現を要望した。

これにより、施設の生徒たちに新しい人との出会いやつながりが生まれ、子供は必要な情報の収集と獲得によって夢に向けた行動が起せると強調した。

同基金では、施設で暮らす高校生への支援事業として「ビヨンドトモロー」を実施。進学のための奨学金給付や人材育成事業を行っている。